

大学院進学 修学・進学ガイドライン (博士後期課程)

目次

出願に向けて－修士から、真の研究者を目指す－

“知りたい” から始まる挑戦－学びを深め、自分を超越る	1
出願前の入学相談	2
教育目的	2
3つのポリシー	3
修了要件	5
科目履修要件	5
取得できる学位	5
修学制度	6

学位取得に向けて

授業について	7
カリキュラムツリー	7
学位取得までのプロセス	9
研究指導方法と年間スケジュール	11
研究における倫理について	12
学位論文の評価基準・審査項目・審査体制・審査方法・ 審査までのプロセス	14
学位論文審査申請時の提出書類	15
生成 AI 利用に関する注意事項	16

学位論文等および参考論文の剽窃チェックについて	17
-------------------------	----

本学大学院が求める学修成果

大学院アセスメントプランの目的	18
-----------------	----

アセスメント対象と指標（具体的な検証方法）	18
-----------------------	----

評価の基準	19
-------	----

相談窓口

21

出願に向けて – 修士から、真の研究者を目指す –

“知りたい” から始まる挑戦—学びを深め、自分を越える

本学大学院進学ガイドラインを手にとってくださった皆さん、ありがとうございます。この冊子との出会いが、皆さんの未来を大きく切り拓く第一歩となることを、心から願っています。

いま私たちは、社会が急速に変化し、かつての常識が通用しなくなる時代に生きています。医療、健康、福祉、教育、産業、環境、あらゆる分野において、従来の枠組みでは解決できない課題が山積しています。そうした現実を前に、社会は「深く考える力」と「新たな価値を創造する力」を備えた人材をこれまで以上に強く必要としています。

大学院での学びとは、まさにそのような力を育む場です。大学院は、ただ知識を蓄積する場所ではありません。皆さん一人ひとりが、自ら問いを立て、探究を深め、社会と対話しながら、自分の考えを形にしていく挑戦の場です。そこには、正解が用意されているわけではありません。しかし、自ら考え抜き、試行錯誤を重ねるそのプロセスの中にこそ、深い学びと成長が待っています。

本学大学院では、こうした“主体的な学び”を支えるための教育環境を整えています。分野横断的な視点や国際的な視野を培う機会、研究倫理や高度な専門性を磨くプログラム、そして学生一人ひとりに寄り添う指導体制を用意しています。社会に出たときに、自信をもって立ち向かえる実力を身につけて欲しい、その思いをもって私たちは日々教育と研究に取り組んでいます。

大学院での生活は決して楽なものではありません。壁にぶつかることもあるかもしれません。しかし、それを乗り越えた先には、学部時代には得られなかった確かな手応えと、自分自身の成長を実感できる瞬間が必ず訪れます。そしてその経験こそが、皆さんの人生を支える大きな礎となるのです。

皆さんが、未来を切り拓く意志と覚悟をもって大学院の扉をたたき、新たな学びと創造に満ちた日々を歩んでくださることを、心より期待しています。この冊子が、その決意を後押しする一助となれば幸いです。

新潟医療福祉大学大学院
医療福祉学研究科
研究科長 大西秀明

出願前の入学相談

充実した大学院生活・研究活動を送るには、ご自身の研究テーマを深められる環境があるか、主研究指導教員の専門性や教育・研究に対する考え方が合っているかが非常に重要です。必ず、出願前に、指導を希望する教員に相談をし、本学での大学院生活・研究活動のイメージを固めた上で出願するようにしてください。

(相談内容例)

- ・ご自身の研究テーマを深められる環境が本学に整っているか
- ・研究室の特色について
- ・指導を希望する教員の研究内容や、指導方法・指導予定について
- ・研究のすすめ方や論文作成の流れについて
- ・どのように授業が行われるのか
- ・修了までのスケジュール
- ・研究や学位取得が今後のキャリアにどう貢献するか
- ・仕事との両立について
- ・修学に対して不安に思っていること

(本学では、障がいをお持ちの方への教育的配慮をおこなっております。お気軽にご相談ください。)

指導を希望する教員と連絡を取りたい場合や、指導を希望する教員が決まっていない場合は、大学院入試事務室までお問い合わせください。

大学院入試事務室：grnyuusi@nuhw.ac.jp ※下記を明記の上、お問い合わせください。

- ・氏名、最終学歴
- ・研究テーマについて（これまでの研究や、大学院でおこないたい研究など）
- ・指導を希望する教員（不明の場合は希望する専門領域）

いただいた内容をもとに、面談に関する連絡をいたします。

教育目的

博士後期課程

博士後期課程は、専門分野について、研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度な研究能力または高度な専門性を要する職業等に必要な能力を養うことを目的とする。(大学院学則第5条3項)

医療福祉学専攻

医療福祉学専攻では、豊かな人間性と高潔な倫理観をもとに幅広い教養を身に付け、保健・医療・福祉・スポーツに関する考究を深化させるとともに、多様な専門領域との融合・連携を促進することで、劇的に変化する学術的・社会的問題の解決を導くことのできる指導的研究者、教育者および高度専門職業人を養成する。

医療福祉学研究科の3つのポリシー

本学では、建学の精神「優れた QOL サポーターの育成」のもと、優れた QOL サポーターに求められる資質・能力を 5 項目あげ、その英語の頭文字をとって「STEPS」と定義しています。

優れた QOL サポーターの 資質・能力【STEPS】		ディプロマ・ポリシー 修了認定方針 以下のような力を身に付けた方に学位を授与します	カリキュラム・ポリシー 教育課程編成方針 以下の方針に従って教育課程を編成し、実施します	アドミッション・ポリシー 入学者受け入れ方針 以下のような能力・意欲等を有する学生を求めます
S	Science & Art 科学的知識と技術 を学び続ける力	保健・医療・福祉・スポーツ領域に関わる知識や技術を身に付け、学術・実践活動に活用できる。	保健・医療・福祉・スポーツ領域に関わる知識や技術およびそれらを学術・実践活動に活用する能力を身に付ける科目を配置する。 その成果は、履修科目の成績および学位論文評価基準、学術論文発表、学会発表により評価する。	保健・医療・福祉・スポーツ領域に関わる知識や技術を学ぶために必要な力を有する。
T	Teamwork & Leadership チームワークと リーダーシップを 発揮する力	ダイバーシティ(多様性の尊重)の考えを有している。 多様な人々の連携を促進できる。	ダイバーシティの考えを身に付け、多様な人々との連携を促進するための科目を配置する。 その成果は、履修科目の成績により評価する。	多様な人々の連携を促進しようとする意志を有する。
E	Empowerment 対象者を支援する力	豊かな人間性および高潔な倫理観を有している。 人々の多様性を尊重し、対象者を導くことができる。	研究倫理教育プログラムを通して、豊かな人間性および高潔な倫理観を身に付ける。 人々の多様性を尊重し、対象者を導く能力を身に付ける科目を配置する。 その成果は、研究倫理教育プログラムおよび履修科目の成績、学位論文評価基準により評価する。	対象者を支援しようとする意志を有する。
P	Problem-solving 問題を解決する力	保健・医療・福祉・スポーツ領域に関する学術的・実践的な課題を設定し、解決に導くことができる。	保健・医療・福祉・スポーツ領域に関する学術的・実践的な課題を設定し、解決に導く能力を身に付けるための科目を設置する。 その成果は、履修科目の成績および学位論文評価基準、学術論文発表、学会発表により評価する。	学術的・実践的な課題を解決しようとする意志を有する。
S	Self-actualization 自己実現を達成する力	保健・医療・福祉・スポーツ領域における学術・実践活動の価値を理解し、持続的に成長する意欲を有する。	保健・医療・福祉・スポーツ領域における学術・実践活動の価値を理解し、持続的に自己を成長させる力を身に付けるための科目を配置する。 その成果は、履修科目の成績および学位論文評価基準により評価する。	保健・医療・福祉・スポーツ領域における学術・実践活動に関与し、創造や成長に意欲を有する。

医療福祉学専攻の3つのポリシー

本学では、建学の精神「優れた QOL サポーターの育成」のもと、優れた QOL サポーターに求められる資質・能力を 5 項目あげ、その英語の頭文字をとって「STEPS」と定義しています。

優れた QOL サポーターの 資質・能力【STEPS】		ディプロマ・ポリシー 修了認定方針 以下のような力を身に付けた方に学位を授与します	カリキュラム・ポリシー 教育課程編成方針 以下の方針に従って教育課程を編成し、実施します	アドミッション・ポリシー 入学者受け入れ方針 以下のような能力・意欲等を有する学生を求めます
S	Science & Art 科学的知識と技術 を学び続ける力	保健・医療・福祉・スポーツ領域における最先端の知識を体系的に理解できる。学術的・社会的問題に対し適切な課題を設定し、自らの仮説を適切な手法を用いて検証できる。得られた成果を世界に向けて発信することができる。	専門領域における最先端の知識をもとに仮説を検証し、その成果を世界に向けて発信する力を修得するために、各領域の研究手法や学術論文の評価に関する特論科目を配置する。その成果は、履修科目の成績および学位論文評価基準①②③、国際学術論文発表により評価する。	医療福祉学に関する科学的知識と研究手法の基本および世界に向けて情報発信するための基礎的英語力を有する。
T	Teamwork & Leadership チームワークと リーダーシップを 発揮する力	ダイバーシティ(多様性の尊重)の考えを基盤に、異なる領域の専門家間の連携を促進できる。多様な領域の知識と技術を融合させることで、関係する人々の成長を促し、共通の目標達成を導くことができる。	異なる領域の専門家間の連携を通じた成長を促し、目標達成に導く力を修得するために、各領域における様々な研究活動に関与し、研究遂行に関する支援等を学ぶ演習科目を配置する。その成果は、履修科目の成績、学位論文評価基準③④により評価する。	異なる領域の専門家間の連携を促進し、関係する人々の成長と共通の目標達成を導こうとする強い意志を有する。
E	Empowerment 対象者を支援する力	豊かな人間性と高潔な倫理観を有している。関係する人々の価値観・自己決断力・自己決定権を尊重し、適切な支援を発展させることができる。	人間性および倫理観をもとに、対象者に対して適切な支援を発展させる力を修得するために、研究倫理教育プログラム、各領域に関する特殊講義科目を配置する。その成果は、研究倫理教育プログラム、履修科目の成績および学位論文評価基準⑤により評価する。	医療福祉学領域において、対象者の支援をさらに発展させようとする強い意志を有する。
P	Problem-solving 問題を解決する力	幅広い教養と深い専門性を基盤に、学術的・社会的問題の解決策を模索し続けることができる。「理論と実践を往還する」思考を身に付けている。	理論と実践を往還することで、学術的・社会的問題を解決しようとする力を修得するために、各領域に関する演習科目を配置する。その成果は、履修科目の成績および学位論文評価基準②④により評価する。	医療福祉学に関する問題を多面的に認識し、解決するために必要な科学的知識および基礎的な研究手法を有する。
S	Self-actualization 自己実現を達成する力	学際的な学術・実践活動の価値を理解し、生涯を通して持続的に自信を成長させることができる。社会的・経済的価値を創出できるとともに、将来を担う人材を育成する意欲を有する。	学術・実践活動によって新たな価値を創出するとともに、将来を担う人材を育成する力を修得するために、各領域に関する演習科目および外部資金獲得等に関する科目を配置する。その成果は、履修科目の成績および学位論文評価基準①～⑥により評価する。	医療福祉学領域における教育研究者として、新たな価値創造や人材育成に対して強い意欲を有する。

修了要件

博士後期課程の修了要件は、当該課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査および最終試験に合格し、学位授与の方針に基づく資質・能力を身に付けることが必要です。ただし、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に1年（在学期間が2年未満で修士課程を修了した場合は3年からその在学期間を減じた期間）以上在学すれば足りるものとします。

科目履修要件

博士後期課程の科目履修要件は次のとおりです。詳細は「履修の手引き(大学院)」をご覧ください。

- 1)必要修得単位数は10単位とし、特殊講義2単位、特殊演習2単位、特殊研究6単位を必修選択して履修しなければならない。
- 2)他の研究領域の特殊講義は自由に選択して履修することができる。ただし、当該科目が開講されている場合に限る。
- 3)他の研究領域の特殊演習および特殊研究を選択して履修することはできない。

取得できる学位

専攻名	学位
医療福祉学専攻	博士（保健学）

新潟医療福祉大学大学院では

様々な修学制度を用意しております

<3年間での修了が心配な方へ：長期履修生制度>

本学大学院では、博士後期課程を標準修業年限（3年間）で修了することが難しい方のために、修了年限を4年、5年または6年に延長できる長期履修制度を設けています。ライフスタイルに合わせて計画的に学ぶことができ、学費（授業料、施設設備費等）は、在学年数に応じ分割納入となるため、年間の負担が軽減されます。（※支払総額は標準修業年限で修了する場合より若干増えます。）

詳細は大学院入試事務室（grnyuusi@nuhw.ac.jp）へお問い合わせください。

<在学期間を短縮して修了したい方へ：博士後期課程在学期間短縮制度>

所定の基準を満たす方は、審査により通常3年間で要する博士後期課程を最短1年間もしくは2年間で修了できる制度です。在学期間を1年間に短縮申請する方は、博士後期課程入学時又は入学の1ヶ月前までに、在学期間を2年間に短縮申請する方は、2年次の10月末までに、所定の申請書に規定された業績に関する書類を添えて申請する必要があります。

詳細は大学院入試事務室（grnyuusi@nuhw.ac.jp）へお問い合わせください。

<特定の科目のみ履修したい方へ：科目等履修生制度>

本大学院に入学しなくても、本大学院の授業科目だけを履修することのできる制度です。詳細は大学院入試事務室（grnyuusi@nuhw.ac.jp）へお問い合わせください。

<博士後期課程以外の科目を履修したい方へ：所属課程外科目履修制度>

所定の条件を満たせば、博士後期課程の学生でも学部または修士課程の科目を履修できる制度です。

詳細は大学院入試事務室（grnyuusi@nuhw.ac.jp）へお問い合わせください。

学位取得に向けて

授業について

授業時間

時限	授業時間帯	時間
第1時限	9:00~10:30	90分
第2時限	10:40~12:10	90分
昼休み	12:10~13:10	60分
第3時限	13:10~14:40	90分
第4時限	14:50~16:20	90分
第5時限	16:30~18:00	90分
第6時限	18:10~19:40	90分
第7時限	19:50~21:20	90分

本学大学院では、主に平日夜間（第6時限、第7時限）と土日昼間および集中講義で授業をおこなっています。昼間の時間は仕事等をはじめ、授業以外の活動にあてたい方など、学生個々のライフスタイルに合わせた履修が可能となっています。

メディアを利用した授業

本学では、対面による授業とメディアを利用した授業（メディア授業、遠隔授業、オンライン授業などとも言います）を組み合わせたハイブリッド型授業を取り入れています。

メディア授業の主な形式は以下のようになります。

・同時双方向型

Web会議システム等を用いて、リアルタイムで配信する授業形式です。オンライン上で教員と学生が双方向で繋がり、その場での質疑応答や履修者同士で意見交換をすることができます。

・オンデマンド型

オンライン上で事前に収録された講義動画や資料によって学ぶ授業形式です。本学教務システム等を活用した課題提出、質疑応答ができ、履修者同士の意見交換も可能です。

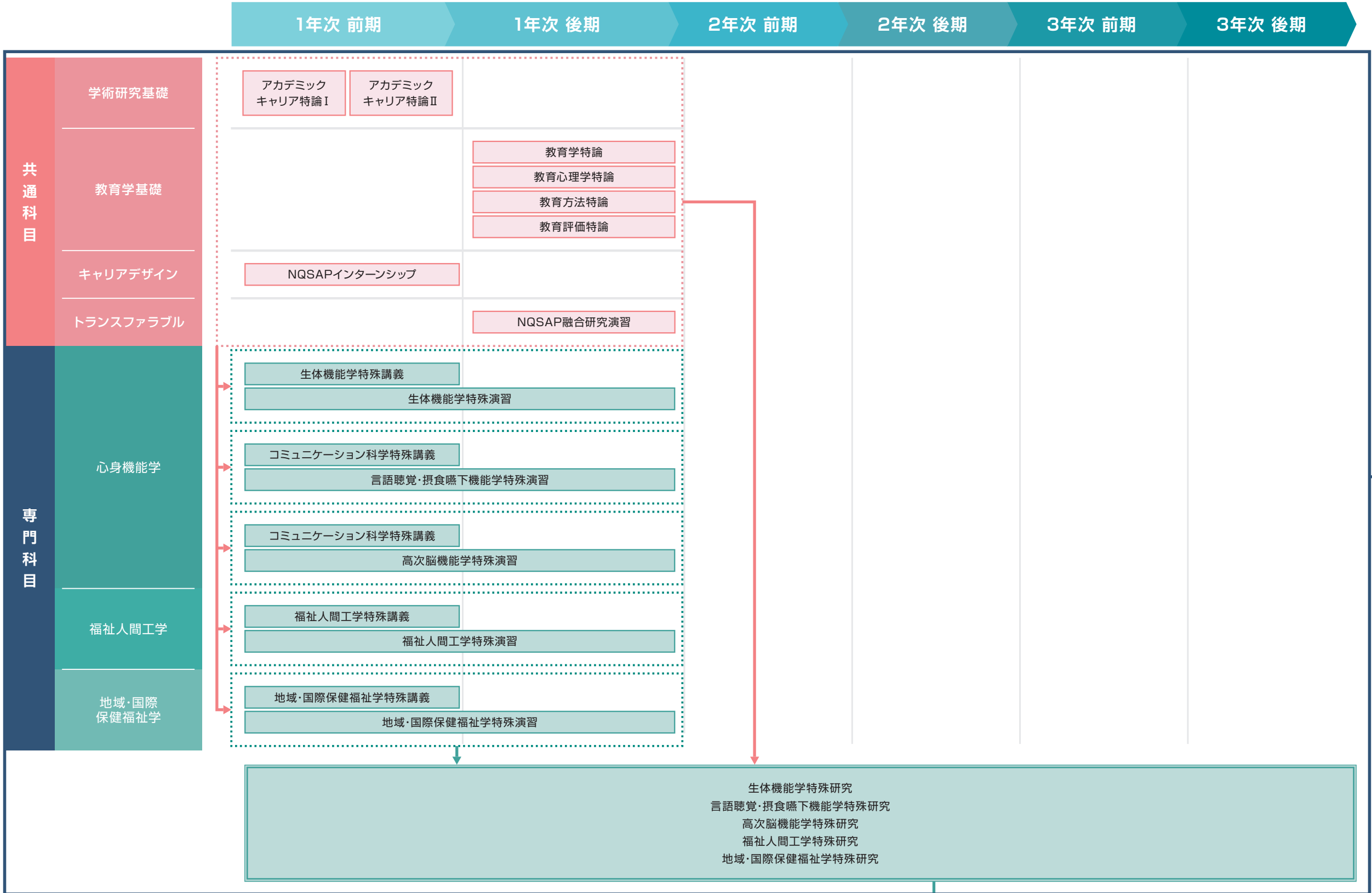
研究活動などは対面式授業とメディア授業を組み合わせ実施をしています。

カリキュラムツリー

カリキュラムツリーは、年次進行や授業科目間の繋がりや体系的な関係性を、ディプロマ・ポリシーと関連付けて示した図です。カリキュラムツリーが示されることで、授業科目の順序性・体系的・科目配置の整合性を一覧でき、授業科目の関連をとらえられやすくなります。

2026年度 博士後期課程医療福祉学専攻 保健学学位プログラムカリキュラムツリー

- ※ は必修。
- ※ 教育学基礎科目は、理学療法士、作業療法士の専門職教育に携わる意向のある学生向けの科目内容であるため、履修の際は注意が必要。
- ※ NQSAPインターンシップは、学生ごとに実施時期が異なる。また、長期の実習を含むため、履修の際は注意が必要。
- ※ NQSAP融合研究演習は、対面実施のため、履修の際は注意が必要。



ディプロマ・ポリシー(DP)

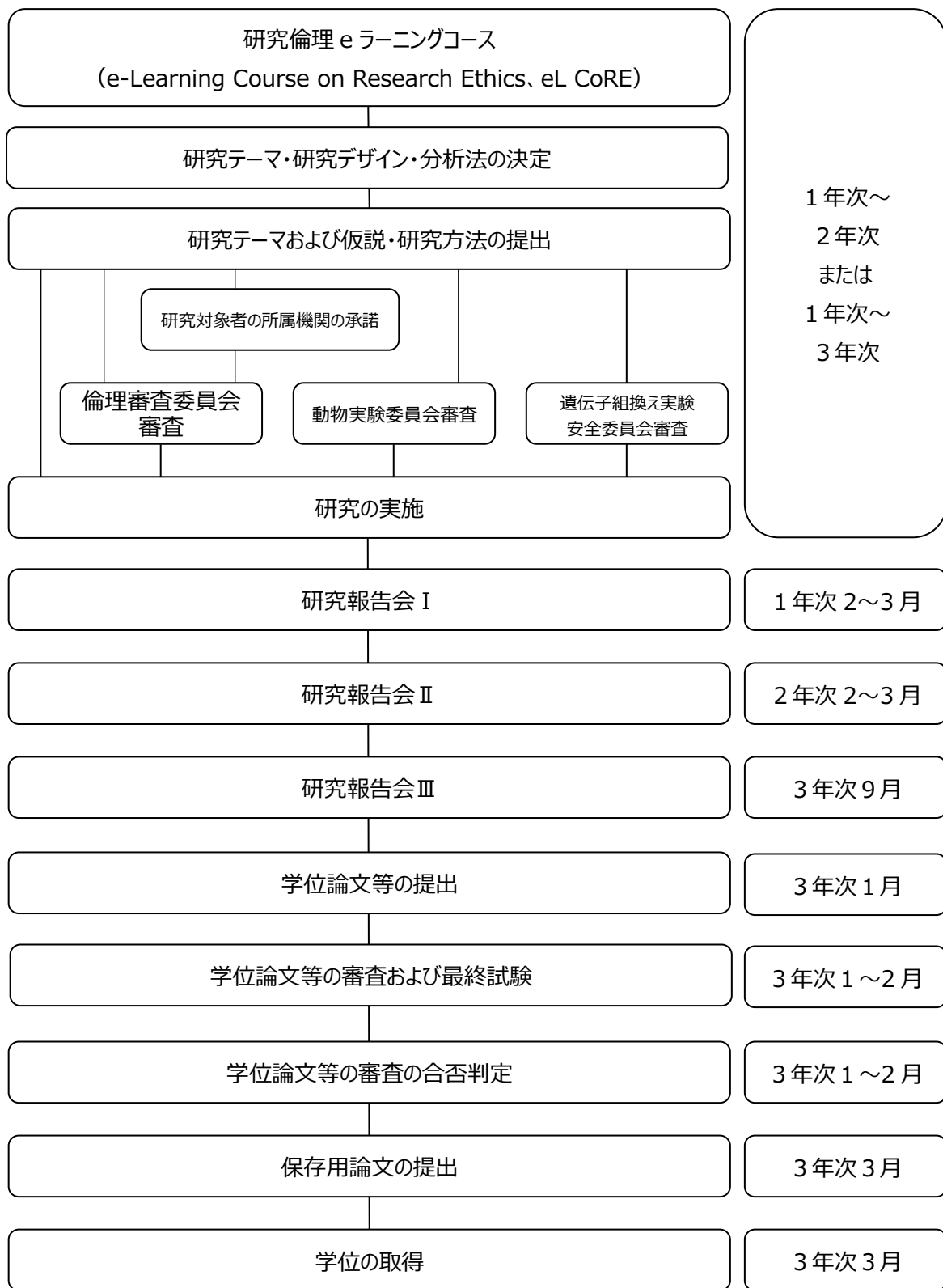
- 【Science & Art】**
 保健・医療・福祉・スポーツ領域における最先端の知識を体系的に理解できる。学術的・社会的問題に対し適切な課題を設定し、自らの仮説を適切な手法を用いて検証できる。得られた成果を世界に向けて発信することができる。
- 【Teamwork & Leadership】**
 ダイバーシティ(多様性の尊重)の考えを基盤に、異なる領域の専門家間の連携を促進できる。多様な領域の知識と技術を融合させることで、関係する人々の成長を促し、共通の目標達成を導くことができる。
- 【Empowerment】**
 豊かな人間性と高潔な倫理観を有している。関係する人々の価値観・自己決断力・自己決定権を尊重し、適切な支援を発展させることができる。
- 【Problem-solving】**
 幅広い教養と深い専門性を基盤に、学術的・社会的問題の解決策を模索し続けることができる。「理論と実践を往還する」思考を身に付けている。
- 【Self-actualization】**
 学際的な学術・実践活動の価値を理解し、生涯を通して持続的に自身を成長させることができる。社会的・経済的価値を創出できるとともに、将来を担う人材を育成する意欲を有する。



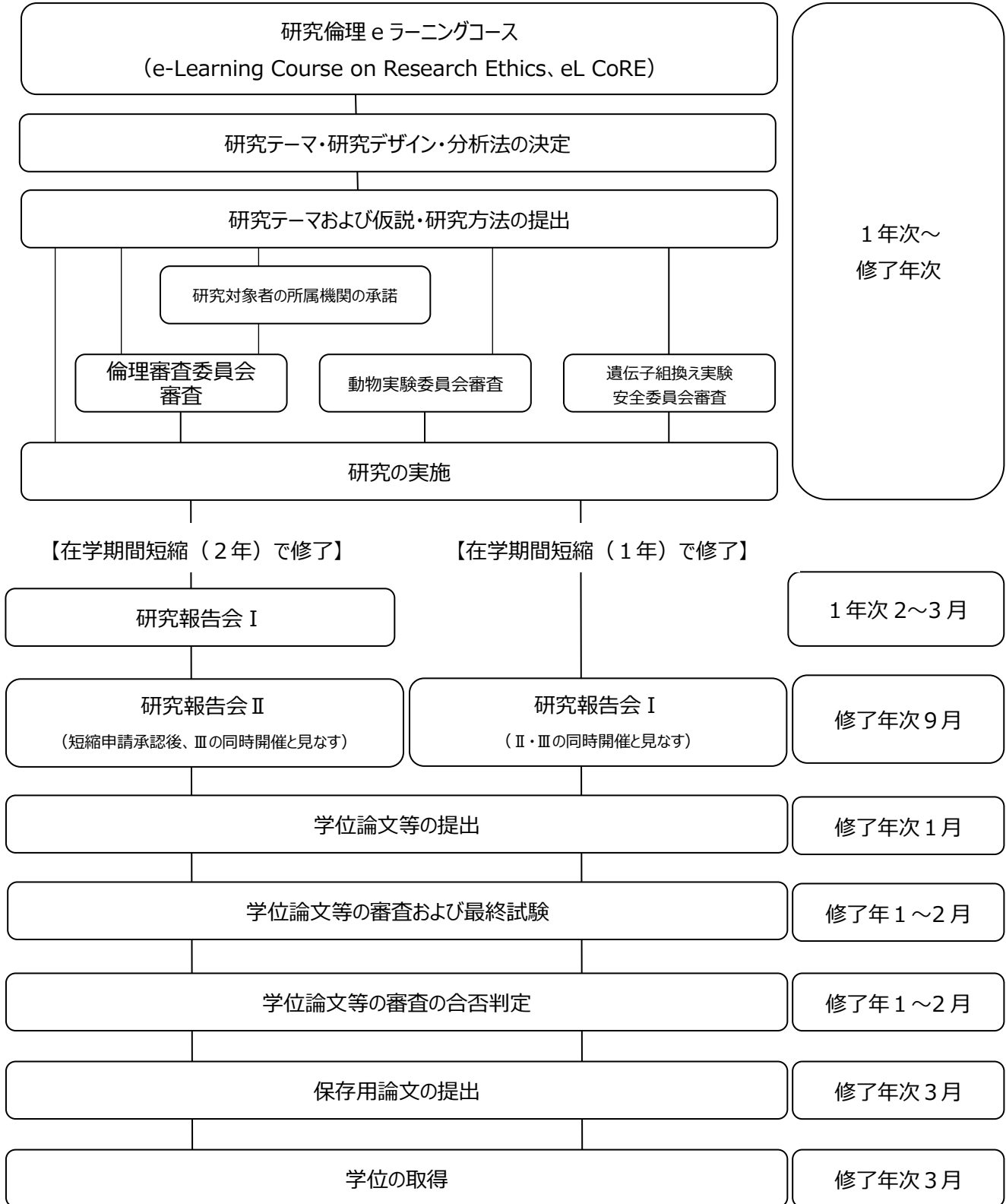
- 到達度評価
- ★ 学位論文ループリック
 - ★ DPループリック
 - ★ ポートフォリオ(活動報告)

学位取得までのプロセス

4月入学・標準年限（3年）で修了する場合



4月入学・博士後期課程の在学期間を短縮して2年もしくは1年で修了する場合



研究指導方法と年間スケジュール

指導体制

学位取得に向けた研究指導は原則2名（主研究指導教員，副研究指導教員）にて行い、在学年限内に学位論文等の提出および論文審査会に合格できるよう適切な指導を行います。

博士後期課程では研究報告会Ⅰ～Ⅲ終了後に学位論文ループリックによる到達度評価を行い、学位論文作成に向けた進捗状況を共有することで、研究の質保証と学生支援の充実を図ります。

また、各年次終了時には、ディプロマ・ポリシー（DP）ループリックによる到達度評価を行い、現状の課題や今後の目標を共有することで、学位授与方針との整合性を確保しつつ、計画的な学修の深化を促します。

主研究指導教員と副研究指導教員の役割

主研究指導教員：大学院生の研究指導および学位論文作成における、教育的責任と研究指導の中核的役割を担います。

副研究指導教員：主研究指導教員を補佐し、研究の妥当性および学際性を高めるため、専門的・学際的な補完的支援を行います。

主研究指導教員と副研究指導教員が協働し、充実した大学院生活・研究活動を送れるよう支援する体制を構築しています。

年間スケジュールと指導内容

スケジュール			指導内容	
1年次	前期	4月	入学式、新入生オリエンテーション、履修登録、前期授業開始	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新入生オリエンテーションならびに研究指導教員による履修指導 ■ 研究テーマ、研究計画の決定に向けた個別指導（目安：5～8月） → 研究倫理eラーニングコース受講のチェック ■ 研究開始に向けて必要書類（倫理申請書、動物実験計画書、遺伝子組換え実験計画書）の作成に関する個別指導（目安：8～10月） → 各種委員会承認後、研究の進捗に応じた個別指導 ■ 研究報告会Ⅰに向けた個別指導（スライド作成、プレゼンテーション） → 終了後に学位論文ループリックによる相互評価を行い、到達度の共有を図る ■ DPループリックによる相互評価とDP到達度シートによる可視化を通じて、到達度の共有とフィードバックを実施
		4～5月	研究指導教員（主研究指導教員、副研究指導教員）の決定	
		5～8月	研究倫理eラーニングコースの受講 論文剽窃検知ツールのオンライン説明会	
	後期	10月	後期授業開始	
		2～3月	研究報告会Ⅰ 学位論文ループリック、DPループリック、ポートフォリオの提出	
2年次	前期	4月	履修登録、前期授業開始	<ul style="list-style-type: none"> ■ 研究の進捗状況に応じて、 ・学会発表に向けた個別指導 ・査読付き学術雑誌等への投稿に向けた個別指導 → 投稿前にiThenticateによる剽窃・盗用等のチェック ・追加実験等の開始に向けて必要書類（倫理申請書、動物実験計画書、遺伝子組換え実験計画書）の作成に関する個別指導
		5～8月	論文剽窃検知ツールのオンライン説明会	
	後期	10月	後期授業開始	
		2～3月	研究報告会Ⅱ 学位論文ループリック、DPループリック、ポートフォリオの提出	
3年次	前期	4月	履修登録、前期授業開始	<ul style="list-style-type: none"> ■ 研究報告会Ⅱに向けた個別指導（スライド作成、プレゼンテーション） → 終了後に学位論文ループリックによる相互評価を行い、到達度の共有を図る ■ DPループリックによる相互評価とDP到達度シートによる可視化を通じて、到達度の共有とフィードバックを実施 ■ 研究報告会Ⅲに向けた個別指導（スライド作成、プレゼンテーション） → 終了後に学位論文ループリックによる相互評価を行い、到達度の共有を図る ■ 学位論文提出に向けた個別指導 ■ 論文審査会に向けた個別指導（スライド作成、プレゼンテーション）
		5～8月	論文剽窃検知ツールのオンライン説明会	
		9月	研究報告会Ⅲ 学位論文ループリックの提出	
	後期	10月	後期授業開始	
		1月上旬	学位論文の提出	
		1下旬～2月上旬	論文審査会（学位論文の審査、最終試験）	
		2月	修了者発表	
		3月	保存用論文の提出	
			修了式、学位授与	

研究における倫理について

研究は、倫理的原則に従って、計画・実施・分析・発表されなければなりません。それぞれの原則および所定の規程に基づいて研究を行いましょ。詳細は、「新潟医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 論文作成マニュアル」で確認してください。

研究倫理eラーニングコース【eL CoRE】の受講

科学研究が社会に及ぼす影響はきわめて大きいものです。そのため、科学者には大きな期待とともに大きな責任が課され、倫理綱領や行動規範など、知っておかなければならないことがたくさんあります。本学大学院では、それらを学ぶため、研究倫理を学修できるeラーニングコース（e-Learning Course on Research Ethics）【eL CoRE】の受講を必須としています。

倫理審査委員会審査・動物実験委員会審査・遺伝子組換え実験安全委員会審査

人間を対象とした研究を実施する場合は、倫理上の妥当性と科学的合理性の観点から、「ヘルシンキ宣言」や、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針等の趣旨に沿って、本学倫理審査委員会の承認を得なければなりません。また、動物実験を実施する場合は動物実験委員会、遺伝子組換え実験を実施する場合は遺伝子組換え実験委員会の承認を得なければなりません。さらに、倫理審査委員会で承認された研究の実施期間中は、倫理審査委員会に対して年1回の状況報告を行い、研究を終了または中止するときは、その旨および結果の概要を研究報告書により報告しなければなりません。その他についても、倫理審査委員会・動物実験委員会・遺伝子組換え実験安全委員会の指示に従う必要があります。それぞれの規程は、論文作成マニュアルで確認してください。

研究計画における倫理的原則

研究の目的、方法を明確に示し、科学的で倫理的な研究として認められるよう計画しなければなりません。研究により影響を受ける人や動物に対して、権利と福祉を適切かつ十分に保護する必要があります。また、結果に対して誤解が生じる可能性が最小限になるよう計画しましょう。

分析における倫理的原則

研究は、他の研究者によっても同じ結果が得られなければなりません。結果を改ざんしたり修正したりして、都合の良い結論のみを引き出してはいけません。

発表における倫理的原則

他の研究者の研究や結果を自分のものとして発表することは剽窃となります。引用をする場合は、細かなルールがあります。学位論文を提出したり学術専門誌に投稿する際は、事前に類似度判定ソフトを用いて、不適切な引用や剽窃がないか必ず確かめなくてはなりません。本学では、研究論文など研究成果物の内容を既存の公開データと照合し評価する剽窃検知ツール iThenticate（アイセンティケイト）を導入しています。利用にあたっては案内が届きますので、案内に従って登録してください。以下のリンクから、詳細を確認することができます。

論文の剽窃・類似性チェックツール iThenticate(アイセンティケイト) (turnitin 公式サイト)
<https://www.turnitin.jp/products/ithenticate/>

倫理指針等

以下は、主要な倫理指針等が掲載されているアドレスです（2026年3月現在）。研究実施および論文作成にあたっては、これらの指針等を十分に踏まえて行ってください。

1. ヘルシンキ宣言：人間を対象とする医学研究の倫理的原則
<http://www.med.or.jp/wma/helsinki.html>
2. 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(文部科学省・厚生労働省・経済産業省)
<https://www.mhlw.go.jp/content/001077424.pdf>
3. 科研費ハンドブック(文部科学省・日本学術振興会)
http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/15_hand
4. 日本社会福祉学会研究倫理規程
<https://www.jssw.jp/society/regulation/>

学位論文の評価基準・審査項目・審査体制・審査方法・審査までのプロセス

本学大学院博士後期課程では、学位論文について評価基準、審査項目、審査体制、審査方法を定めています。

1) 学位論文の評価基準および審査項目

<学位論文の評価基準>

医療福祉学専攻（保健学学位プログラム）では、提出された論文の研究内容が本専攻の学位論文としてふさわしい学術的な意義、新規性、独創性、妥当性、創造性、倫理性等を有しているかを審査し、下記の審査基準を満たした場合に、合格とする。

<審査項目>

- ① 研究課題の学術的意義と位置づけ：これまでの研究動向および先行研究に基づいた課題（仮説）が設定されていること。研究の学術的意義が認められ、その位置づけが述べられていること。
- ② 研究課題の新規性と独創性：研究成果には、博士論文に相応しい新規性や独創性が認められ、医療福祉学領域における学術の発展に寄与する可能性があること。
- ③ 研究の妥当性：適切な研究手法が用いられており、研究結果の信頼性があること。研究結果に対する考察・結論が客観的な根拠に基づいており、妥当であること。
- ④ 研究課題の創造性と波及効果：得られた研究成果が、当該分野を含む医療福祉学領域における学術の発展や臨床現場への適用性、有用性があること。
- ⑤ 研究倫理：研究倫理が遵守されていること。
- ⑥ 論理性と形式・体裁：研究全体の論理に一貫性があり、博士論文に相応しい形式でまとめられていること。

2) 審査体制（全学位プログラムにおける教育研究者プログラム共通）

博士後期課程の学位論文等の審査委員会は、当該論文に関連のある3名以上の大学院博士後期課程専任教員で組織され、1名を主審査委員とし、他を副審査委員とする。なお、主研究指導教員は、審査委員に含めないこととする。ただし、当該論文の研究分野や審査に求められる専門性の観点から、主研究指導教員を審査委員に選定する場合は、研究科委員会の議を経るものとする。

3) 審査方法（全学位プログラムにおける教育研究者プログラム共通）

学位論文の審査は、以下の方法にて実施され、評価は合格および不合格で行われる。博士後期課程の学位論文の審査は、提出された博士論文およびその口頭試問の内容を審査する。その際の基準は、「学位論文の評価基準」を参照する。

4) 審査までのプロセス

- 1 「研究倫理eラーニングコース（e-Learning Course on Research Ethics、eL CoRE）」を受講する。
- 2 研究報告会Iにて、学位取得に向けたプロセス・活動、学位論文の進捗および今後の活動計画を報告し、到達度に関する自己評価等を実施する。

- 3 研究報告会Ⅱにて、学位論文の進捗および提出に向けた計画を報告し、到達度に関する自己評価等を実施する。
- 4 研究報告会Ⅲにて、学位論文の進捗および提出に向けた計画を報告し、到達度に関する自己評価等を実施する。

学位論文審査申請時の提出書類

- 1 (様式1) 論文審査願
- 2 (様式2) 論文目録
- 3 (様式3) 履歴書
- 4 (様式4) 学位論文等採用届
- 5 論文採用証明資料(博士論文)
- 6 論文: 1部

- ・審査規程が明記された英文または和文の学術雑誌に掲載または掲載可(accepted)の証明書がある筆頭原著論文(別刷りあるいはその複写物)であること。英文学術雑誌とは、国際的に高い評価を得ている専門雑誌(Niigata Society of Health and Welfare 発行英文雑誌を含む)とする。和文学術雑誌の場合は、学位申請者の業績等を勘案し、総合的にその是非を判断する。なお、学位論文となる原著論文は、大学院博士後期課程入学以降に投稿された論文であること。

- ・共同筆頭著者論文である場合は、所定の申請書および誓約書ならびに同意書を提出すること。

7 (様式5) 論文要旨: 1部

- ・英文、和文いずれの論文も、要旨は和文で記載する。
- ・要旨は指定の書式で2,000字以内とする。
- ・要旨の下段には、5個以内のキーワードを添える。

8 (様式6) 学位論文等提出許可書

9 (様式7) 参考論文採用届

10 論文採用証明資料(参考論文)

11 参考論文: 1部

- ・学位申請者本人が該当分野で優れた業績をあげたことが判定できる、学術専門誌に掲載または掲載可(accepted)の証明書がある原著論文1編以上とする。なお、1編に限り、入学前に出版されたものも認める。参考論文となる原著論文を掲載する学術専門誌については、博士論文の審査の際に各分野の実状および学位申請者の業績等を勘案し、総合的にその是非を判断する。
- ・博士論文、参考論文のうち1編以上は英語論文であることとする。

12 (様式8) 学位論文等の剽窃に係る届出書

- ・学位論文等の剽窃に係る届出書は、学位論文および参考論文について「iThenticate」を用いて剽窃や不適切な引用がないかを確認後に作成すること。また、学位論文審査において学位論文に修正があった場合は、再度、修正した学位論文の剽窃チェックを行い、類似度検出結果と共に所定の届出書を提出すること。参考論文がある場合も、同様に対応すること。

13 類似度検出結果

- ・学位論文および参考論文について「iThenticate」を用いて剽窃チェックを行い、その結果を提出すること。
- ・「iThenticate」による剽窃チェックは、両論文とも学術専門誌に投稿する前に実施すること。

生成 AI 利用に関する注意事項

学位論文等作成

- 1 生成 AI から得た情報は、そのまま使用せずに正確性や正当性を確かめる。
- 2 個人情報等を生成 AI に入力しない。
- 3 生成 AI による文章や画像等のデータをそのまま使用することは著作権侵害や剽窃等につながる可能性があり、研究不正となる危険性があることを認識する。
- 4 論文内で使用する引用について正確な出典を記載する等、「新潟医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 論文作成マニュアル」を遵守する。

学位論文等作成

- 1 生成 AI から得た情報は、そのまま使用せずに正確性や正当性を確かめる。
- 2 個人情報等を生成 AI に入力しない。
- 3 生成 AI による文章や画像等のデータをそのまま使用することは著作権侵害や剽窃等につながる可能性があり、研究不正となる危険性があることを認識する。
- 4 論文内で使用する引用について正確な出典を記載する等、「新潟医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 論文作成マニュアル」を遵守する。

学位論文等審査

主審査委員・副審査委員を担当する大学院専任教員は、上記1で示した注意事項を認識し、学位論文等の審査および最終試験を実施する。

学位論文等および参考論文の剽窃チェックについて

剽窃チェックの方法

- 1 剽窃検知ソフト「iThenticate」を使用して剽窃や不適切な引用がないかを確認する。
- 2 剽窃チェックは、学位申請者が行い、主研究指導教員の確認を受けた後、適切に修正した学位論文の最終版とする。

提出資料

学位論文の最終版および参考論文に関する「類似度検出結果」（各1部）および「学位論文等の剽窃に係る届出書」を他の必要書類とともに、学位申請時に大学院・国際交流課に提出すること。

学位審査終了後

学位審査において学位論文に修正があった場合には、再度、学位申請者は修正した学位論文の剽窃チェックを行い、主研究指導教員の確認を受け、修正版の学位論文とともに「学位論文等の剽窃に係る届出書（審査後）」および「類似度検出結果」を大学院・国際交流課に提出すること。

留意事項

- 1 提出する類似度検出結果には、最終版/修正版の学位論文および参考論文をソフトに適用した日付を必ず含めること。
学術専門誌掲載論文：学術専門誌に投稿する前に実施した日付であること
- 2 検出結果は、所定の方法で提出すること。
- 3 検出結果は、所定の方法で出力すること。

本学大学院が求める学修成果

大学院アセスメントプランの目的

大学院アセスメントプランは、大学院生の学修成果を3つのレベル（機関レベル、教育課程レベル、科目レベル）において可視化し、教育活動の改善につなげることを目的としており、各指標を基に総合的評価を行うための実施方法を定めたものです。

そのため、研究科・専攻（学位プログラム）において展開している教育活動についても、その質の保証と向上を図ることを目的として、3つの方針（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）に基づいて学修成果を点検・評価し、その結果を教育内容や教育方法、学修指導などの改善につなげます。

アセスメント対象と指標（具体的な検証方法）

アセスメントは以下の基本構成で行い、必要に応じて各指標を相互に関連させて実施します。また、機関レベルの評価は、教育課程レベルと科目レベルの各指標を基にして多面的・総合的に評価します。

アセスメント対象	アドミッションポリシーの適切性	カリキュラムポリシーの適切性	ディプロマポリシーの適切性	3ポリシーの整合性
機関レベル(全学・大学院)	大学院の基本理念・目的との整合性 ・学生の受入れ、受入れ方法の適切性	大学院の基本理念・目的との整合性 ・教育課程の適切性 ・学修・教育成果の評価 ・教育課程の体系性・一貫性 ・教育方法の適切性 ・学修支援・施設・設備の適切性	大学院の基本理念・目的との整合性 ・教育課程の適切性 ・学修・教育成果の評価 ・教育課程の体系性・一貫性 ・教育方法の適切性 ・学修支援・施設設備の適切性	大学の基本理念・目的との整合性 ・教育課程の適切性 ・学修・教育成果の評価 ・教育課程の体系性・一貫性 ・教育方法の適切性 ・学修支・施設・設備の適切性
指標 教育課程レベル(研究科・学位プログラム)	選抜機能評価 ・入学試験の成績 ・日本語能力試験の成績(留学生) ・志願書類等の記載内容 ・GPA 入学前教育の有効性 ・入学時意識調査	成績評価の適切性 ・GPA 設計・実行の適切性 ・カリキュラムマップとシラバスの検証(DPと各科目の内容、履修要件や難易度に不都合がないか、カリキュラムで想定している能力を修得しているかの確認等と併せて実施) ・学位論文ルーブリック	学修成果の適切性 ・DPルーブリック ・修了生調査(修了時) ・DP到達度調査 ・累積GPA ・学位論文ルーブリック ・学位論文評価(倫理教育プログラムを含む) ・ポートフォリオ(研究・教育業績・受賞・表彰等) ・学修時間(正課外)	成果からのアセスメント ・標準修業年限修了率 ・就職率・進学率 ・学位授与率 ・修了生調査(修了時) ・DP到達度調査 プロセスからのアセスメント ・休学率 ・退学率

		学修成果の適切性 ・成長実感・満足度 ・ポートフォリオ(研究・教育業績・受賞・表彰等) ・学修時間(正課外)	DPおよび学修成果の評価の適切性 ・修了生調査(0B・0G) ・就職先調査	
科目レベル(授業)		成績評価の適切性 ・学位論文評価 ・GPA、各科目成績分布 設計・実行の適切性 ・単位授与率 学修成果の適切性 ・授業振り返り(授業評価アンケート)		

評価の基準

(1) 各科目の成績評価

- ・各科目ではシラバスに記載されている方法で成績評価を行います。
- ・成績の評価は、S、A、B、C、D、E、Fとし、S、A、B、C、Eを合格、D、Fを不合格としています。
- ・合格した科目については、所定の単位を授与します。

評価区分	評価の基準	評価の範囲	合・否
S	達成目標を極めて高い水準で達成している	90点～100点	合格
A	達成目標を高い水準で達成している。	80点～89点	合格
B	達成目標を標準的な水準で達成している。	70点～79点	合格
C	達成目標を最低限の水準で達成している。	60点～69点	合格
D	達成目標を達成していない。	0点～59点	不合格
E	単位を認定した科目	—	合格
F	履修を放棄した科目	—	不合格

(2) 総合的な成績評価

- ・総合的な成績評価は、GPA (Grade Point Average) を用いて評価する。GPAは、以下のように換算されます。

評価区分	評価の基準	評価の範囲	合・否	G P
S	達成目標を極めて高い水準で達成している	90点～100点	合格	4
A	達成目標を高い水準で達成している。	80点～89点	合格	3
B	達成目標を標準的な水準で達成している。	70点～79点	合格	2
C	達成目標を最低限の水準で達成している。	60点～69点	合格	1
D	達成目標を達成していない。	0点～59点	不合格	0
E	単位を認定した科目	—	合格	—
F	履修を放棄した科目	—	不合格	0

- ・ GPA は次の式により計算するものとし、詳細については『履修の手引き』を参照のこと。

$$\text{GPA} = \left(\sum [\text{GP} \times \text{単位数}] \right) \div \left(\sum \text{履修科目の単位数の合計} \right)$$

(3) ディプロマポリシーの到達度評価

- ・ 修了認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）の到達度については、教員と院生が DP ルーブリックを用いて DP レベルの相互評価を行い、認識を共有するとともに、DP 到達度シート（ディプロマ・サプリメント）を用いて各科目における成績評価に基づく DP 到達度を可視化し、院生にフィードバックします。
- ・ DP ルーブリックは、以下の方法で評価を実施します。

区 分	評価方法
学修者評価	院生が、DP ルーブリックに基づいて毎年度に DP 達成度の自己評価を行う。
修了時評価	指導教員が、DP ルーブリックに基づいて修了時における院生の DP 到達度を評価する。
学修過程評価	指導教員が、DP ルーブリックに基づいて毎年度（修了時を除く）、院生の DP 到達度を評価する。

(4) 学位論文評価

- ・ 学位論文の評価は、各学位プログラムで定められている学位論文評価基準に基づいて実施します。
- ・ 各学位プログラムでは、提出された論文の研究内容が学位論文として相応しい学術的な意義、新規性、獨創性、妥当性、創造性、倫理性等を有しているかを審査し、審査基準を満たした場合に、合格とします。詳細については、「学位論文の評価基準」を参照のこと。
- ・ また、研究報告会の実施後に、教員と学生が学位論文ルーブリックを用いて相互評価を行い、到達度に関する共有を図ります。

相談窓口

本学大学院では、院生の皆さんの悩みや困りごとに寄り添えるよう、相談窓口としてNUHWセーフティネットを設けております。お困りのことがありましたら、下記相談窓口をご利用ください。大学院生活全体の“つまずき”や“引っかかり”を解決し、安心・安全な大学院生活を“ナッジ（そっと後押し）”します。

セーフティネット相談窓口

図書館棟 図書館・学修支援センター
講義棟 医務室（健康管理センター）、学生課、就職センター
メール soudan@nuhw.ac.jp

その他問い合わせ窓口

